

# 保育者養成における表現活動を通じた 領域意識向上の試み

仲嶺 まり子 高濱 正文 秋元 文緒<sup>1)</sup>

Approach to improve the awareness in child-care domain through self-expression  
activities for child-care professional development

Mariko NAKAMINE Masafumi TAKAHAMA Fumio AKIMOTO

## 【要 旨】

本研究は、保育内容「表現」における授業改善に向けての「表現」と他領域との関係を考える領域意識向上についての方法の研究である。その一手段として、表現活動を5領域全般で振り返ることのできる「領域シート」を考案し活用を試みた。本稿は、その「領域シート」の活用方法と有用性についての検証報告である。

まず、現職保育士対象の表現活動講座において「領域シート」活用を試み、領域意識の変化を調査した。その結果、講座開始時には3.19（5段階評価）であった領域意識度が、講座終了時には4.57と上昇した。また、終了時のアンケート調査「保育における『領域』という視点の果たす役割」では6つの基礎カテゴリーが抽出され、「保育計画における視点」「子どもの捉えの視点」の2つの上位カテゴリーによって視点の役割を明確化した。このことにより領域意識向上の効果が認められ「領域シート」の有用性が示された。今後は、これらの結果を踏まえ、「領域シート」活用による授業改善及び活性化に取り組んでいく考えである。

## 【キーワード】

表現活動 保育内容 領域意識 領域シート

## 1. はじめに

本研究は、幼稚園教員養成課程及び保育士養成課程科目保育内容「表現」における領域内容の理解や他領域との関連についての意識向上を

図るための方法の研究である。

保育者養成における「表現」は、授業担当者によってその内容は異なり統一されていない。例えば、音楽や造形等の教員によるオペレッタの指導、オムニバス形式による音楽表現・造形表現・言語表現・身体表現等の指導、事例研究

<sup>1)</sup> 埼玉大学 昭和女子大学

及び模擬指導の計画と発表等々である。

本学では、音楽・造形・身体の名で「表現」を担当している。授業は、教員1名が1クラスを担当する形態のため授業方針の統一、内容や進行に関する詳細な打ち合わせを行っている。パワーポイントの作成や教材の準備はもちろんのこと、各回の授業報告を行うことで問題点等を共有し、授業改善を図っている。

授業は、表現技術や指導技術修得が中心である。参考資料としては、幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を用いているが、内容の考案については、主に大場牧夫の『表現原論』を参照した。

『表現原論』における大場の子どもの主体性を重視した実践や子どもを捉える視点に共鳴したことが大きな理由である。とりわけ、大場は<sup>1)</sup>「～新領域の5つというのは、活動を分類したものではなく、一人の人間として子どもをどう見るかということです。～この5つの窓から子どもの発達の状態を見ようではないかと考えたのが今度の領域です。～」と発達の視点としての領域の見方について述べている。このことから、学生が5領域の視点から「表現活動」を捉えることが子ども理解に繋がる重要な事だと考え、「表現」と他領域との関連を捉えるための授業方法を模索した。以下は、その取り組みについての報告である。

## 2. 問題の所在

保育現場においては、さまざまな「表現活動」が行われ、その内容は多様である。そのため「表現」では、領域内容と関連する教材や遊びを活用した実践的活動に取り組み、それらにおいて、領域「表現」の内容や他領域との関連について理解を深めるための授業方法の模索が課題であり、その課題解決の手段として「領域シート」の導入を試みることにした。すなわち、授業での実践的活動と5領域内容との関連について「領域内容一覧」を参照してピックアップするという方式である。このような、表現活動を5領域から捉えるという点において「領域

シート」は効果的であると考えられたが、その役割については不明であった。

そこで、現職保育士を対象とした講座において「領域シート」活用を試み、シート活用による領域意識向上やその有用性について検証することで、授業改善に役立てることにした。

## 3. 研究目的と方法

表現活動の振り返り手段としての「領域シート」の有用性、すなわち領域「表現」及び他領域との関連の考察手段としての「領域シート」の有用性の検証を目的に、現職保育士対象の「幼稚園教諭特例講座」において次のような調査を実施した。

### (1) 調査を実施した講座

- ・科目名：「表現活動の研究」
- ・対象者：県内の現職保育士72名
- ・日 時：平成27年8月19日(水)  
9:00～16:10

### (2) 講座の主な内容

#### 1) 保育事例の考察

幼稚園教育指導要領における領域「表現」の内容について、「探検ごっこ」「カード作り」「イメージ表現」「森のお店屋さんごっこ」の保育事例をもとに討議。

#### 2) 保育所(園)での表現活動の振り返り 各所(園)での表現活動について振り返り、2つの主な活動事例を所定用紙に記載。

#### 3) 創作活動(グループ学習)

グループ(ラウンドロビン)による創作活動では、協同学習の技法を活用して次のような流れで活動を進めた。

#### <活動の流れ>

- ① 課題について各自で案を作成
- ② グループ内で各自案を発表(ミラーリング)
- ③ グループ案の作成
- ④ 他グループの進行状況のリサーチ(特派員)
- ⑤ 練習

## ⑥ 発表

### ＜創作活動の内容＞

以下の3つの活動を行った。

#### ・スリーポイントシアター

よく知られている物語から3場面を選び、グループでその場面を台詞なしでポーズ表現する。順番に発表し他グループが物語の題名を言い当てるという活動。

#### ・新聞紙を使った活動

新聞紙の運搬方法をグループで考案し、小学校鑑賞教材から選曲したCDの音楽に合わせてグループ全員が同じ動作をしながら動く。曲がストップしたら、他のグループと運搬方法をチェンジ。同様に新聞紙を乗り物の一部に見立てて行う。

#### ・楽曲による物語の創作

「おもちゃの兵隊」のCDを鑑賞した後、音楽のイメージに合わせてグループで物語を創作する。さらに、その物語に動きを付けて(台詞なし)グループ毎に発表。

### 4) 表現活動案の作成

今後、保育所(園)で取り組みたい表現活動を考案し、所定用紙に記載。

## (3) 研究の方法

前述の講座を対象に以下の調査を実施した。

### 1) アンケートの実施

① 5領域と表現活動との関連についての意識の有無について、講座開始時と終了時に5段階評価で調査を行った。

② 保育所(園)で行った表現活動の主な2事例についてのアンケートを実施し、それらの事例を活動別に分類した。

③ 講座終了時に、「保育における『領域』という視点の果たす役割について」の自由記述アンケートを実施し、質的分析を行った。アンケート記述については、結論を述べている一文を抜き出しラベルワークで仕分けを行った。次に、内容の共通するものをグループにまとめ、6つ

の基礎カテゴリーを作成し、さらにそれらを2つの上位カテゴリーにまとめた。初回集計作業は代表執筆者が行い、共同執筆者がチェックするという流れで作業を行った。

### 2) 領域シートによる関連領域内容の検証

5領域の内容を記載した「領域シート」を用い、課題及び活動と関連する領域内容のチェックを行った。

① 前項②の実践事例について、関連領域内容のチェックを行った。(図1)。

② 3つの創作活動(スリーポイントシアター・新聞紙を使った活動・楽曲による物語の創作)において、活動との関連領域内容のチェックを行った。

## 4. 結果と考察

### (1) 保育所(園)における表現活動の実践事例の集計

各園で行った表現活動の主な2活動については表1に示すように8項目に分類された。制作活動を伴う造形表現、歌や音楽に合わせての模倣表現や楽器活動の音楽表現、物語を題材にした劇遊びの他に、運動遊び、ゲーム遊び、お散歩、泥んこ遊び・砂遊び、プール遊び・水遊びである。

項目別集計結果は、造形表現(56活動)、音楽表現(34活動)、劇遊び(21活動)、運動遊び(8活動)、ゲーム遊び(7活動)、散歩(6活動)、泥んこ遊び・砂遊び(5活動)、プール遊び・水遊び(5活動)で、造形表現活動が最も多く、次いで音楽表現、劇遊びとなっている。

「造形表現」や「音楽表現」、「劇遊び」の活動が多いのは、年間を通して題材選択が可能であることが要因の一つと考えられる。造形表現では「お店屋さんごっこ」、劇遊びでは「絵本(物語)の役を演じる活動」が多く、日常保育と結びついた活動が行われていることが窺える。一方、音楽表現では「模倣表現」が多く行われている。音楽に合わせての動物や乗り物の模倣表現では、「リトミック」と記載している

保育活動と関連領域

(質問)これまでの保育における表現に関わる保育実践について、その活動の概要および関連すると思われる領域内容番号を記載ください。

I 健康	(1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3) 進んで戸外で遊ぶ。 (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 (5) 先生や友達と遊ぶことを楽しむ。 (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。 (7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排溺などの生活に必要な活動を自分でする。 (8) がけ園における生活の仕方を学び、自分で生活の場を築きながら共通しをもって行動する。 (9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	活動名	季節	歳児
	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分でする。 (4) いろいろな遊びを楽しむながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達と積極的にいかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7) 友達よりに自然に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を達成し、工夫したり、協力したりなどする。 (9) よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する。 (10) 友達とのかわり深さを認め、思いやりをもつ。 (11) 友達と楽しく生活する中でまよひの大切さに気付く、守ろうとする。 (12) 共同の道具や用具を大切にし、みんなで作る。 (13) 高齢者をはじめ地域の人のための自分の生活に積極的に関わり合いの人々に親しみをもつ。	活動名	季節	歳児
II 人間関係	(1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3) 進んで戸外で遊ぶ。 (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 (5) 先生や友達と遊ぶことを楽しむ。 (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。 (7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排溺などの生活に必要な活動を自分でする。 (8) がけ園における生活の仕方を学び、自分で生活の場を築きながら共通しをもって行動する。 (9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	活動名	季節	歳児
III 環境	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分でする。 (4) いろいろな遊びを楽しむながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達と積極的にいかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7) 友達よりに自然に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を達成し、工夫したり、協力したりなどする。 (9) よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する。 (10) 友達とのかわり深さを認め、思いやりをもつ。 (11) 友達と楽しく生活する中でまよひの大切さに気付く、守ろうとする。 (12) 共同の道具や用具を大切にし、みんなで作る。 (13) 高齢者をはじめ地域の人のための自分の生活に積極的に関わり合いの人々に親しみをもつ。	活動名	季節	歳児
IV 言葉	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分でする。 (4) いろいろな遊びを楽しむながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達と積極的にいかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7) 友達よりに自然に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を達成し、工夫したり、協力したりなどする。 (9) よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する。 (10) 友達とのかわり深さを認め、思いやりをもつ。 (11) 友達と楽しく生活する中でまよひの大切さに気付く、守ろうとする。 (12) 共同の道具や用具を大切にし、みんなで作る。 (13) 高齢者をはじめ地域の人のための自分の生活に積極的に関わり合いの人々に親しみをもつ。	活動名	季節	歳児
V 表現	(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分でする。 (4) いろいろな遊びを楽しむながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達と積極的にいかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7) 友達よりに自然に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を達成し、工夫したり、協力したりなどする。 (9) よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する。 (10) 友達とのかわり深さを認め、思いやりをもつ。 (11) 友達と楽しく生活する中でまよひの大切さに気付く、守ろうとする。 (12) 共同の道具や用具を大切にし、みんなで作る。 (13) 高齢者をはじめ地域の人のための自分の生活に積極的に関わり合いの人々に親しみをもつ。	活動名	季節	歳児
		あなたは、音楽・造形・身体・言葉などの表現活動を行うとき、他領域との関連について意識しますか。数字で回答下さい。 とても → 5 4 3 2 1 → まったく その理由を簡単に答え下さい。		

図1. 領域シート「保育活動と関連領域」

ものと「模倣表現」のみの記載のものとがあり、リトミックへの理解や認識が異なることが分かる。「リトミック遊び」の内容は、速さの違いや合図による動きが中心である。また、音楽に合わせて様々な動きを楽しむ場合は「リズム遊び」と記載されており、模倣表現やリトミックと区別されている。

泥んこ遊びや砂遊びでは、土の感触を楽しむ、プール遊びでは、水の心地よさを味わう。散歩をしながら、地域の人と挨拶する、草花に触れる、生き物を見つける、風の心地よさを感じる等、人と自然とのふれ合いを通して豊かな感性を育む活動が大切にされていることが窺える。

(2) 保育所(園)における表現活動の実践事例と関連領域について

保育所(園)における表現活動実践事例について無作為に受講者の半数の36事例を抽出し、各事例で選択された関連領域内容を表2に集計した。表2によると、8項目に分類された全ての活動の総計で50%以上選択された領域内容は

次の通りである。

- ・「I健康」(1)先生や友達と触れ合い、安定感を持って行動する。(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- ・「II人間関係」(1)先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。(2)自分で考え、自分で行動する。
- ・「IV言葉」(1)先生や友達の言葉や話に興味をもち、親しみを持って聞いたり、話したりする。(2)したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- ・「V表現」(1)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

以上、これら8つの領域内容が様々な表現活動に共通した関連領域内容として、表現活動計画時の基本的な視点としての役割が考えられる。また、8つの領域内容には「III環境」が含

表1. 各園で実践された表現活動

\* 数字は年齢

造形表現					
ボディペインティング①	3・4	動物や生き物のお絵描き①	5	花火のお絵描き	4
ボディペインティング②	5	動物や生き物のお絵描き②	4・5	夏のお楽しみ会でのゲームの看板作り	1
ボディペインティング③	2	色水遊び①	5	あじさい作り	4
お店やさんごっこ①	4・5	色水遊び②(ジュース屋さんごっこ)	4	指スタンプで花火作り	4
お店やさんごっこ②	0~5	七夕飾りの製作①	4	びっくり箱作り	4
お店やさんごっこ③	5	七夕飾りの製作②	0~4	広告紙で好きなものを作る	3
お店やさんごっこ④	5	糊製作(とうもろこし)	2	マジックで水とき絵を描く	2
お店やさんごっこ⑤	4	タンポ押しでかき水製作	1	トイレットペーパーの芯でこいのぼり作り	3
お店やさんごっこ⑥	4・5	小麦粉粘土	1	入れ物作り(お餅入れ)	2
野菜スタンプ遊び①	1・2	タンポ押しで雲を描く	0	木の実でケーキ作り	3
野菜スタンプ遊び②(花火)	2	アジサイの花を觀賞して折り紙でおる	5	うちわの製作	3
野菜スタンプ遊び③	4	シール貼り	1	粘土で好きなものを作る	2
夏祭りの製作①(看板・お神輿)	5	紙芝居作り(創作)	5	粘土で思い思いの物(動物や食べ物)を作る	4
夏祭りの製作②(お神輿)	4	クリスマス製作	4	布を思い思いに使って遊ぶ	3
フィンガーペインティング①	3	落ち葉を使ったお絵描き	3	ブロック遊び	1
フィンガーペインティング②	1	クレヨンを乗り物に見立てて、紙の上を散歩する	2・3	季節に合ったものを製作する	2
染紙遊び①(アジサイ)	4	どんぐりコマ作り	3	落ち葉や木の実を使った造形	5
染紙遊び②	1	廃材遊び①	5	楽器の音を聴いて絵を描く	5
新聞紙を破りから、てるてる坊主作り	2	廃材遊び②	5		
音楽表現					
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現(リトミックと記載)①	2	鈴・タンバリン・トライアングルで楽器活動(遊び)	3	ベルの演奏	5
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現(リトミックと記載)②	2	鈴・タンバリンで楽器活動(遊び)	2	そよ風さんと北風さんの音楽を聴いてスカーフを持って風表現をする	2
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現(リトミックと記載)③	1	リトミック遊び①	2	マーチング	3・4・5
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現(リトミックと記載)④	3	リトミック遊び②	2	歌遊び(ぞうさんとくものす)	2
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現①	1	リトミック遊び③	0	やりたい楽器を演奏する(おもちゃのチャチャチャ)	2
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現②	3・4・5	リトミック遊び④	3	みんなの前で順番に好きな歌を歌う	1・2
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現③	2・3	リトミック遊び⑤	4・5	動物になって楽器遊び(山の音楽家)	3
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現④	2	リトミック遊び⑥	5	歌に合わせて自分で振りをつけて踊る(おもちゃのチャチャチャ)	3
音楽に合わせて動物や乗り物になって模倣表現⑤	4	ダンスを踊る①	2	和太鼓	5
音楽に合わせて、様々な動きを楽しむ(リズム遊びと記載)①	2	ピアノに合わせて動物の模倣表現	3		
音楽に合わせて、様々な動きを楽しむ(リズム遊びと記載)②	3・4・5	音楽に合わせて動物の模倣表現①	1		
音楽に合わせて、様々な動きを楽しむ(リズム遊びと記載)③	2	音楽に合わせて動物の模倣表現②	3・4・5		
音楽に合わせて、様々な動きを楽しむ(リズム遊びと記載)④	1				
劇遊び					
絵本の物語の劇遊び①	3・4・5	絵本の物語の劇遊び⑧「おおきなかぶ」	4	ウインナーやエビフライになりきってお弁当の身を表現する	2
絵本の物語の劇遊び②	5	絵本の物語の劇遊び⑨	4	さととカニの劇遊び(台詞を自分で考える)	5
絵本の物語の劇遊び③	4	絵本の物語の劇遊び⑩「カエルのレストラン」	4	子ども達がやりたい物語の劇遊び	4
絵本の物語の劇遊び④「くれよんのくろくん」	2	絵本の物語の劇遊び⑪「はらべこあおむし」	3	ごっこ遊びから創作劇をする	4・5
絵本の物語の劇遊び⑤「おおきなかぶ」	2	絵本の物語の劇遊び⑫	4・5	ダンゴムシ表現①(虫探しから発展)	4
絵本の物語の劇遊び⑥「こびとのかつや」	3	絵本の物語の劇遊び⑬「3びきのこぶた」	3	ダンゴムシ表現②(虫探しから発展)	3
絵本の物語の劇遊び⑦	4			カタツムリ表現(虫探しから発展)	4
運動遊び					
サーキット遊び①	3	マット・跳び箱・平均台	2	新聞紙を使って運動する	3
サーキット遊び②	2	パラバルーン	4・5	鉄棒・跳び箱	1~5
ソーラン節(リズム体操)	5	音楽に合わせて運動遊び(ジャンプ)	3		
ゲーム遊び					
音楽に合わせてフルーツバスケット	4	イス取りゲーム①	4・5	しりとり遊び	4・5
音楽に合わせてオセロゲーム	5	イス取りゲーム②	4・5	音楽ゲーム「おおかみさん」①	3
				音楽ゲーム「おおかみさん」②	2・3
散歩					
草花を摘んだり、川の様子を見て楽しむ	2	草花、虫、動物を見たりしながらお散歩をする	0・1・2	虫を探しに戸外に出る	4
散歩に行き、風を感じたり、草花に触れる	2	散歩しながら地域の人に挨拶し、交流する	0	散歩で自然への気づきや小石や落ち葉で何かに見立てて遊ぶ	3・4
泥んこ遊び・砂遊び					
泥んこ遊び①	2	泥んこ遊び③	2	砂場遊び①	2・3
泥んこ遊び②	3・4			砂場遊び②	2
ボール遊び・水遊び					
ボールで水をすくったり、体にかけたりして遊ぶ①	1	ボールで水をすくったり、体にかけたりして遊ぶ③	1	水の冷たさや気持ちよさを味わう	1
ボールで水をすくったり、体にかけたりして遊ぶ②	0	水の中でワニになって遊ぶ	3・4		

まれていないが、散歩や泥んこ遊び・砂遊びにおいては環境との関連も多く選択されており、領域意識向上を図ることで、子どもの発達や活動分野に相応しい環境を考える視点を持ち、より「環境」と関連付けた表現活動の広がりにつながる事が推察される。

一方、造形表現や劇遊び、お散歩、泥んこ遊び・砂遊びにおいては、20項目以上の領域内容が選択されるなど、幅広い活動が行われていることも窺われた。

このような領域シートを活用した活動と領域内容との関連の検証は、その活動の特徴を活かしながら全体を俯瞰することができ、計画や振り返り時の有用な手段であると考えられる。

### (3) 領域意識についての事前事後評価

表現活動と5領域との関連に関する意識の有無についての講座開始時及び終了時の評価(5段階)の平均値は、図2に示したとおり、講座開始時は3.19で、講座終了時は4.57という結果であり、開始時に比べ終了時において、その値は上昇していることが示された。このことにより、表現活動における「領域シート」活用は、5領域の関連性への意識向上に有用であると考えられた。

また、領域シートについては無記載の7名を除いた全員が、「活動毎に内容を確認できてよかった」「無意識に行っていた活動もねらいや目標が明確になり、子どもに的確に反映させられると感じた」「深く考えずに活動に取り組んでいたことを実感した」「領域シートに記入することで、内容を整理して考えることができた」等の肯定的感想の記載が見られ、このこと

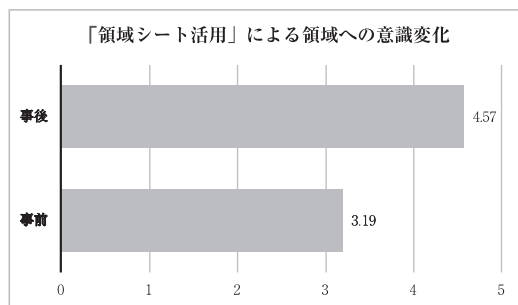


図2. 「領域シート活用」による領域意識の変化

により、事前事後評価と同様にその有用性が示されていた。

### (4) 保育における「領域」という視点が果たす役割について

「領域」という視点が果たす役割について検討するにあたり、カテゴリを抽出した文章は、表3に示したとおりである。その結果、基礎カテゴリの6つの項目が抽出され、「計画を立てるときの様々な視点については12、「ねらいの意識化」は7、「保育の幅の広がり」は18の文章が該当した。この3つのカテゴリをまとめて、『保育計画における視点』というカテゴリとした。そして、基礎カテゴリの4つ目の項目として抽出された「活動と子どもの発達の視点」については8、さらに「子どもを見るとき視点」は13、「子どもの育ち」としては9の文章が該当した。この3つのカテゴリをまとめて、『子どもの捉えの視点』というカテゴリとした。

このように自由記述をカテゴリ分類することで、保育者にとっての領域という視点的果たす役割として「保育計画における視点」と「子どもの捉えの視点」という2つの役割が明らかになった。これらの視点を意識することにより、大場が示すところの「発達の視点としての領域の捉え」により近づくことができると考えられるのである。

## 5. まとめ

本研究は、保育内容「表現」における授業改善及び授業活性化に向けての「表現」と他領域との関係を考える領域意識向上についての方法の研究である。その一手段として、表現活動を5領域全般で振り返ることのできる「領域シート」を考案し活用を試みた。

まず、現職保育士を対象とした講座において「領域シート」の活用を試み、シート活用による領域意識向上やその有用性についての検証を行った。その結果、講座終了時における領域意識向上が明らかになると共に、活用に対する肯定的感想を得ることができた。加えて、「保育



表3. 「領域」という視点が果たす役割について (抽出文)

「領域」という視点が果たす役割	
【保育計画における視点】	
*計画を立てるときの様々な視点	
1	活動計画と各領域との関連を考えていく視点を持つことが何より大切
2	領域を意識して活動計画を立てると、何を育てたいか経験させたいかが明確になる
3	5つの領域全てを意識しながら、立案、保育計画を作成する
4	活動後のふりかえり(領域)と反省をふまえた上での計画が大事
5	計画を立てる時、5領域の観点から子どもに何を育てたいかを頭に入れる
6	領域を意識して活動計画を立てる、領域は子どもの育ちに関わる大切な役割
7	領域を意識して活動を考え、指導計画を立てることがやるべきこと
8	領域は互いに関連があり、指導案作成時に必ず考えなければならない
9	活動計画時には、他領域についても見直して関連させて実践したい
10	保育者はよく理解してバランスよく領域に関わることができるよう指導計画を立てるべきである
11	領域を意識することは、活動のふりかえりから次の活動計画へつながる
12	保育活動を計画するときには、すべての領域を考慮しなければならない
*ねらいの意識化	
1	ねらいをもつ時に領域を意識することで、違う領域にも関わることができる
2	ひとつの活動に様々な領域の視点からねらいを設ける
3	ひとつのねらいにとらわれず、幅広い視野で保育する
4	活動や遊びの場面で、何をねらいにするか領域を意識する必要がある
5	ねらいと5領域の関連を意識し、ひとつの活動について視野を広げる
6	領域を細かい視点で見えていくことによって「子どもにつけたい力」を具体的に意識することができる
7	領域をふまえて育てほしい姿の「ねらい」を考える
*保育の幅の広がり	
1	活動がどの領域中心に展開されるか目安になる
2	活動に一つの領域だけでなく、複数の領域がはいっていることに気がつく
3	活動の際に領域を考え実践していきたい
4	一つの活動だけでも様々な領域の中の役割がある
5	活動で子ども一人ひとりに育てたい力を見だし、領域を把握して保育する
6	領域を考えることで保育の幅が広がり、保育を見直す視点となる
7	活動が複数の領域にまたがっているという視点を持つことで、保育者の頭の中で活動が広がり、内容が深まる
8	領域との関連を意識しながら、たくさんの経験のできる保育をしていきたい
9	ひとつの活動に様々な領域がつながっていて、子どもが感じる内容が様々であることに気づく
10	活動の視野が広がり、さらに様々な要素を取り入れることができる
11	一つの活動が多くの領域に関わっている。いろんな領域の絡まった活動は充実しており、子どもたちに生きる力、豊かな感性を育む。
12	領域の視点は自分の保育を見直すきっかけになる
13	領域を意識して保育活動をすると幅が広がる
14	領域の視点を日々の保育に活かせるようにしていかなければならない
15	グループ活動を行うだけでもいろいろな領域の役割を果たすことができる
16	5領域を意識することで、遊びの内容もどんどん展開していくことができると感じた
17	領域の視点の役割は、生活を通して、保育者が5領域を総合的に指導する必要性の確認
18	保育活動は、各領域が深く関わりながら成り立っている。これからは、より意識して保育を行いたい
【子どもの捉えの視点】	
*活動と子どもの発達の見点	
1	領域の視点が子どもの発達を知る目安となる
2	子どもの発達や経験に合わせた活動の分析と確認という役割
3	領域は発達を促す上で大切な役割を持っており、領域相互に関連をもって向上していくもの



4	子どもの発達に応じた活動を領域から考える
5	領域を通して子どもの発達を丁寧に見ることができる
6	子どもを受け止め共感する、発達を見る視点
7	活動の子どもの姿を領域から見ることで発達の様子が分かる
8	一つの活動の中に多くの領域が関連している。その領域一つ一つが心と体の成長に大きく関係している
*子どもを見るときの視点	
1	子どもの自由な活動の援助を適切におこなうための視点
2	どの領域も互いに重複している事が、子どもを見るときの視点のゆるやかさにつながっている
3	子どもとの関わりで領域を意識することで、多角的に子どもの姿を捉えることができる
4	先生や友達とのふれ合いの中に領域は大きく関連していると感じる
5	領域は子どもの成長を見る上で大切な目安
6	子どもを見守り共感し、援助できるために、保育者が領域という視点を軸にして、豊かな感性や人間性を持っていたい。
7	領域を見ると子ども同士の関わりが常に行われていることに気づき、保育者の役割の大きさに責任を感じる
8	ひとつの活動が他領域に関わっていて、5領域を意識すると遊びの中に学びがあることが分かる
9	5領域は子どもが自由な発想をもって活動に取り組むようにするもの
10	5領域は全てのことに通じていて、遊びの中にも全ての要素が入っている
11	領域との関連の考察が子どもにとっての有意義な活動になる
12	領域の視点の果たす役割は、五感を使って活動する。五感と5領域が全てつながっている
13	保育者自身が領域について学び子どもたちに伝えていく、日常生活一つ一つにも領域が関係していることを再確認する
*子どもの育ち	
1	5領域を健康に育てるために、子どもの力を引き出す保育をしていきたい
2	5領域は子どもの成長に大きく影響している、ひとつの活動で5領域を意識すること
3	子どもの育ってほしい姿と領域との関連を考える
4	集団の中で知る経験を作り出す役目が、保育における領域での教師の役割
5	子どもの遊びの中に様々な領域と関係しており、遊びが子どもの育ちの総合的な役割を占めている
6	子どもたちに意図した働きかけをする上で、気づきや不足が明確に分かる
7	相互に関連した領域という視点により人間形成の基礎を培う
8	遊び=学びが5領域の持つ大きな役割
9	5領域は子どもの生活の全てと関連している

における『領域』という視点の果たす役割」についてのアンケートでは、「保育計画における視点」「子どもの捉えの視点」という2つの役割が明らかになり、模擬指導や事例考察時の「領域シート」活用の有用性が推察された。

「領域シート」の考案は、もともと大場の示す「発達の視点としての領域の捉え」によって子ども理解を深めるための一方法として考えたものである。子ども理解を深めるためには、<sup>1)</sup>「保育者固有の《目》」に囚われることのない「子どもを見る視点」が大切である。そのため保育者養成において、子どもの表現の柔軟な受け止めの土台作り、すなわち、活動を様々な領域から捉えることの視点作りが重要であると考え。今後は、今回の調査結果を踏まえ、領域意識向上に向けて「領域シート」活用を通して

授業改善及び活性化を図って行く考えである。

## 付記

本稿は、平成28年日本保育学会第69回大会でのポスター発表「表現活動における関連領域考察を通じた領域意識向上の試み」を加筆修正したものである。

## 引用文献

- 1) 大場牧夫 <フィールドノートからの試論>『表現原論』- 幼児の「あrawし」と領域「表現」- 1996 萌文書林 p.151

## 註

- 1) 大畑祥子 『保育内容 音楽表現の探究』 相川書房 1996 p.94  
「第4章、(4) 保育者のかかわりの子どもにとっての意味」で、「子どもの表現の見方は価値観によって異なりだれでも同じではないこと、かかわり方はそのような固有の《目》に基づいている。」と述べている。

## 参考文献

- ・ 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成20年10月）2008 フレーベル館
- ・ 厚生労働省 『保育所保育指針解説書』（平成20年告示） 2008 フレーベル館
- ・ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2015 フレーベル館
- ・ 石川恵美 模擬保育における学生の気づきと学び 全国保育士養成協議会第51回研究大会研究発表論文集 2012 pp.460～461
- ・ 兼間和美 領域「表現」の授業内容を考える - 子どもの自由な表現を受けとめられる感性を養う授業内容について - 日本保育学会第69回大会発表要旨集 2016 p.273
- ・ 上野奈初美 「表現」の授業内容についての検討 日本保育学会第69回大会発表要旨集 2016 p.272
- ・ 佐々木真吾 陳省二 磯部ゆかり 子育て支援センターにおける保育士志望学生の学び - 光塩短大「マンマ」での実習レポートから - 保育士養成研究第33号 2015 pp.51～60